

# るんびに

第八十二号

楊林山 正光寺

波多正文

尼崎市東大物町1-3-7  
(06) 6481-3253

## 信頼の絆

九月十三日 秋彼岸法要

講師 貴島 信行 師



偉大な漫画家としてよく知られた故手塚治虫さんは、大阪大学医学専門部の学生の頃、漫画の道をとるか、医学の道をとるか、どちらの道を選択するかで随分と悩まれたそうです。それは当時、学生の頃よりすでに漫画家として名を世に送り出していたからでした。漫画を志せばとてもまともな医学の勉強はできない。しかし、ともかくも漫画が好きだったのでした。

小学生の頃、漫画ばかり描いていて、教師から「戦時といつこの非常時に漫画などかくのは不謹慎きわまる」と怒鳴りつけられ、ついには殴る蹴るの暴力をふるわれても、やめることができなかった

ったほど好きな道でした。しかしながら、今は違つてその頃は漫画で身を立てるほどの経済的保証もなく、また漫画そのものがいわば低俗なものとして社会的地位の未だ認められていなかった時代でしたから、手塚さんは二者択一に悩んだのでした。

悩みに悩んだあげくに、思いきつてお母さんに相談したのだそうです。その時のお母さんの返事はたったひとつ、「自分の好きな道を行きなさい」という言葉でありました。「この母のひとことと決心がついた。この一言で人生が変わった。」と後年述懐されたということです。

私はテレビで紹介された手塚氏のこうしたエピソードをききながら、おそらくは世界中で第一にあげられるほどに子どもの学歴や進学に対しては関心を持ち、また多額の教育費を支払うことを惜しまない日本の親たちの現況を考えると、今の若き父親や母親の大多数は、即座に「自分の好きな道を行きなさい」とは言えないだろうな、などと思つたことでありました。勿論私もその若き親たちのひとりであります。

手塚氏は、「母が自分を信じていてくれたことが本当にうれしかった」といわれたそうですが、ご本人の秀でた才能と精進努力があつてのことは当然ではありますものの、結果的にみれば子どもに対する母親の篤い信頼が、偉大な漫画家として

将来花開かせていくことになつたといえましょう人は、自分が信じられ認められ受け入れられる世界があつてはじめて、困難な中にもそこに生きる喜びを感じ、勇気を奮い起こして、精一杯前へ進もうとする力が湧いてくるのではないのでしょうか。

日々さまざまな選択を迫られ、まどい悩むことの多いなかにあつて、み仏の大きな信頼に支えられ励まされながら、私自身もそこから逃げることなく、困難に立ち向かうことのできる自分でありたいと思います。

### 正光寺行事



#### ◆ 秋季彼岸会

九月十三日 (土) 午後二時～四時

ご講師 貴島 信行 師

#### ◆ 常例法座

十月十日 (金) 午後二時～四時

ご講師 栖雲 深泥 師

#### ◆ 歎異抄を学ぶ会

毎月第三土曜日 午後二時～三時三十分